

**第6期宮前区区民会議 第2回（仮称）地域福祉部会
【摘録（案）】**

日時：平成28年9月16日（金）18:30～20:30

会場：宮前区役所4階 第3会議室

【進行 中里部会長】

出席委員：青柳、老門（聡）、大久保、小田、葛西、川田、砂川、滝本、椿、
中里、中村（11名）

欠席委員：0名

傍聴人：0名

議題：

1. 専門部会の審議テーマについて

意見交換を実施。

キーワード整理、主な意見は次ページ以降参照。

2. その他

部会名について…テーマが絞り込めた段階で協議
今後の進め方…部会日程案等の確認

(仮称) 地域福祉部会の審議テーマについて (主なキーワード整理)

子どもと地域をつなぐ、地域との距離を縮める

課題

■ 地域と距離が離れている子ども

孤独化…私立校で地域に友達がいない、一人で留守番、核家族化 (祖父母とも距離)
地域行事・子供会の参加者減…親も地域と距離、塾や習い事、
認知度低い既存の地域の行事・活動・資源、 どの家の子かわからない

■ 子どもの居場所

放課後や夜間、地域との接点

■ 学習支援

地域力の活用

■ 貧困

負の連鎖の防止

既存の取組

■ 寺子屋事業

地域人の活用・学習支援
居場所としても価値
地域教育会議などが運営

■ わくわく

放課後の居場所、
高学年は参加減

■ こども文化センター

夜間も会館 (～21 時)

■ 生活保護家庭学習支援

■ 自主保育

■ 子ども会…地域差

解決の方向性 (案)

■ 地域の縁側

地域への導入
相談・情報提供

■ 地域人材の活用

世代交流、関係づくり、
担い手育成 子育てや学習支援
地域の祖父母、孫育て

■ 活動・行事の周知・広報

地域への気軽な導入
地域の魅力認知・愛着醸成へ

第3の大人・第3の居場所づくり

事例

■ 町田駅前 民間交番

地域ボランティアで運営
地域への導入・案内

■ 学びのポイントラリー

地域に学ぶ学習の仕組み…シールで動機付け
学校との連携による表彰 地域との調整役が必要
→前期取組提案「ハテナノタネ」の活用検討

■ 地域道路のプチ改善

危険個所を安全安心に
手すりや街灯等、ちょっとした取組
で改善可能な場所の発見

※次回、事例研究、具体的手法の検討など
※各意見の詳細その他は次ページ以降参照

別紙イベントチラシ「運転ボランティアについて知ろう」について、地域ケア推進担当の吉留・池田から説明があり、質疑等行った。

- ・ 福祉有償輸送の運転手は通常の運転免許を持っていればなれるのか？（砂川委員）
- ・ 通常のタクシーの運転手になるには第 2 種運転免許が必要だが、福祉有償輸送については、一定の講習を受ければ普通運転免許でもなれる。今年度は 12 月に社協の講習が受講料 3000 円程度で開講予定。受講者を今後増やしていきたい。（地域ケア推進担当）
- ・ 区内で実際に活動している団体はどのくらいあるのか？（青柳委員）
- ・ 8 団体ある。ただ、内 3 団体は新規の利用者登録を受け付けられない状況で、利用者の固定化や担い手の不足が見られる。（地域ケア推進担当）
- ・ 車両の登録やプレートの色はどうなっているのか？（コンサル）
- ・ 介護用車両でなくても良く、普通のプレートで良い。ただ、状況によって福祉車両が必要な場合、普通車両で依頼を受けられないケースはあるだろう。（地域ケア推進担当）
- ・ 自家用車持込みで関わっている。事業者により車両の所有状況も異なる。（川田委員長）
- ・ 労働時間はどのくらいなのか。（砂川委員）
- ・ 事業者によってそれぞれ。通院や通所などの利用者の希望に合わせて運用されており、利用者の状況によってもまちまちと伺っている。（地域ケア推進担当）
- ・ 私の場合、通院や施設への送迎。ファミリーサポートでお子さんご家族一緒の送迎などだが、事業所と相談してやっており、拘束時間は長くない。（川田委員長）
- ・ 買物などでも利用できるのか。宮前区は坂道が多く、高齢者の免許返還、買い物に行けない人が今後増えていくだろう。そういう人が利用できると良い。（青柳委員）
- ・ 利用の基準は「生活の中で一定程度の困難を抱えている方」とされているが、明確な基準はない。解釈の範囲が幅広く、事業者ごとに判断されている。現状は予約制が多いが、その運営方法、優先順位についても、団体ごとで実施されている。（地域ケア推進担当）
- ・ 人の命を預っている面があると思うが、保険等はどうなっているのか。（砂川委員）
- ・ 各事業所でそれぞれ加入している。（川田・青柳委員）
- ・ 金額設定は何がベースとなっているのか。（青柳委員）
- ・ 距離課金、時間課金など、複数の中から選択できる形になっている。事業所によって料金に差が出るが、運営協議会である程度調整、適正診断を行っている。無料に近い事業者もあれば、通常タクシー料金の半額に近い事業者もある。多様な事業者が参入しやすいようになっている。（地域ケア推進担当）
- ・ 事業者によって所有車両の種類や数も異なり、把握しきれていないが、国交省の調査による全国的な数値では車両や担い手の不足が指摘されている。（地域ケア推進担当）
- ・ 保険も、運用も、運転手の力量も業者まかせで、質の悪い福祉サービスが発生してしまわないか心配だ。利用者は、委ねるしかない。運用のガイドラインがもう少し明確な形で提示されると良い。資金的な補助なども重要ではないか。（大久保委員）

議題 1：専門部会の審議テーマについて

1) 地域の危険箇所の改善

【地域の道路のプチ改善】

- ・ 前回話題となった馬絹の階段の現場を確認したが、やはり危険で、手摺が欲しい。駅への近道として通行者が多い階段だ。お店で繰り返し相談を受けた。(砂川委員)
- ・ 地域の危険箇所をみんなで探し、解決を働きかけていく活動が必要ではないか。手すりなどちょっとした事で改善される道は他にもありそうだ。(川田委員長)

※会議終了後に地図上で当該場所を確認。今後、管理者等確認し、可能な対応を確認・検討することとした。

2) 子どもを主ターゲットにしたテーマの検討

【地域と距離のできたしまった子ども、子どもと地域のつながりづくり】

- ・ 子ども達のために何かやる方向性は非常に良い。(小田委員)
- ・ 子どもと地域の人との繋がりづくりが何かできないか。(中里部会長)
- ・ 地域の誰ともつながらず、一人で家で過ごしている子ども、わくわくを嫌って留守番している子ども。そういう子どもと地域をつなぐ場があると良い。(川田委員長)
- ・ 私立学校に電車で遠くまで通っている子どもは帰ってくると友達がおらず、寂しい思いをしている。小学校は地域の学校を出ていても関係が途切れてしまう。(砂川委員)
- ・ 子どもの居場所は既存のものがかかなりある。既存の取組をもっと活用・周知できると良い。(葛西委員・中里部会長)
- ・ 親の仕事が終わるまで待って食事が遅くなる子もいる。地域で集まって、食事づくりをしたり、宿題ができるような場が増えていくと良い。(川田委員)
- ・ カフェは扉を開けなければならず、入りにくいことがある。もっと開かれた地域の縁側のような場所、地域への導入があると良い。(中里部会長)
- ・ 白幡神社の相撲やお神輿などは本格的で伝統があり、魅力的で楽しい行事だ。親が知らなかったり、行けないから子どもも参加できない。あまり知られてないが、源頼朝にもゆかりある神社で無形文化財の禰宜舞も継承されている。もっと知ってもらいたい。区をあげてみんな来てもらっても良い。(椿委員)
- ・ 馬絹では、お祭りやどんど焼、節分にはたくさんの子が集まるが、子ども会には入らない。普段は見かけない。それぞれのお勉強や習い事で忙しい(中村委員)
- ・ 盆踊りへの参加者が減ってきている。踊っているだけでは楽しめない人も多そうだ。魅力的な出店が多いお祭りなどには集まる。家族で行け、楽しめる場があればもっと集まるのではないか。(砂川委員)
- ・ 大人も雑談ができる場や、高齢者から昔の体験談など話を聞ける場があると良い。町内や区役所のお墨付きで、子ども達にちょっと冒険をさせてあげたい。(滝本委員)

【地域による子育て】

- ・ 昔は子ども会などの活動を通じて地域の大人が地域の子ども達を見ていた。どこの子なのかわからない状態。今は地域と子どもが離れてきてしまっている。(川田委員長)
- ・ 昔は子ども会活動がとても盛んで、土橋では800人の子どもが、ほぼ皆参加していた。今は親が役員になるのを嫌がったりで、100人程度になっている。(老門委員)
- ・ 娘の友達と一緒に星座の勉強をした経験があるが、他人の子どもに何かを教えるとされるのは責任感とともに喜びもある。PTAの役員なども敬遠されがちだが、経験者は逆にすごく協力的だったりする。(滝本委員)
- ・ 宮前区には自主保育の団体も多く、元気なお母さんたちの間で育っている子ども達があり、少数派の中でも良い知恵を繋いできた方々がいる。(滝本委員)
- ・ 土橋では子ども会のOBが育成会を組織し地域行事などで活躍している。現役役員は数人でも、どんな行事でもできる体制がある。(老門委員)
- ・ 有馬は子ども会が健在で、長年指導されている方も多い。隣の旦那さんは1期生だそう。ソフトボールや野球、羽根つきなどいろいろやっている。(青柳副委員長)
- ・ 子ども会等の状況は地域格差が随分ある。宮前平地区は親の段階から地域と距離があり、子供も地域と離れており、地域活動が少ない。(大久保委員)
- ・ 共通して必要なのは第3の居場所、第3の大人。誰が第3の大人になれるのか、それを区全体で考えられると宮前区らしい取組ができるかもしれない。(大久保委員)
- ・ こどもが忙しいのは塾だけではなく、土日のスポーツや習い事もある。子ども会のイベントに行ける子が少ない。(椿委員)

【祖父母による孫育て】

- ・ 孫が小さい時に孫をよく預かり、子育てを手伝っていたが、周囲から批判されることもあった。当時は祖父母が孫の面倒を見るケースは少なかった。(中村委員)
- ・ 最近は祖父母に子どもを見てもらって、夫婦の時間を楽しむ家庭も多い。(椿委員)
- ・ 宮前区は転勤族が多い。祖父母と住まいが離れている家庭から見ると、近くの祖父母に子どもを預けられる環境はものすごくうらやましい。地域のおじいちゃんおばあちゃんがいると良いなという想いはあると思う。(葛西委員)
- ・ 地域のおじいちゃん、おばあちゃんとの間で何かできないか。例えば登下校時に町内会によるパトロールは、子どもと交流しながら見守っているが良い。(中里部会長)
- ・ 地域のおじいちゃんおばあちゃんとの交流が、地域への愛着や地域の魅力になれば良い。(中里部会長)

【こども文化センター（こ文）の活用】

- ・ こ文に、寺子屋事業のような形で地域のボランティアがもっと入っていければ、新たな居場所ができるのではないかと。(葛西委員)

- ・ 指定管理の契約に「こういった事業を展開してくれ」と盛り込んで委託する方法はあるようだ。(葛西委員)
- ・ 川崎区大師での事件の後、全市的にこ文を夜も子ども達のために活用するという記事が出ていた。(中里委員)
- ・ 宮前平こ文は夜も開館しており、子ども達が来て卓球などしている。(老門委員)
- ・ 中学生は夜の公園にたむろするより、こ文に行く方がよほど良い。新しい場所を探すよりも、こ文で何かできれば良い。(椿委員)
- ・ 本当はこ文で、子ども食堂や寺子屋などの取組ができると良い。中学校区に一つあるので、誰でも行ける形になる。実現は難しいと思うが理想だ。(葛西委員)
- ・ こ文には、給湯設備など簡単な調理施設があり、食事や調理の場等の取組も可能ではないか。(青柳副委員長)
- ・ 他区と比較し「宮前区はこ文が少ない」と言われることがある。会館は午前・午後は予定が埋まっている。夜は管理人がおらず、あまり貸し出していない。(老門委員)

【寺子屋事業による学習支援】

- ・ 菅生中学校区ではかなり前から地域教育会議が寺子屋事業として、学校外での学習支援を展開している。(葛西委員)
- ・ 菅生での活動は地域の方々の発意と主体で現在の市長が寺子屋事業を打ち出す前から始まった。当初は時間をかけて学校の理解を得ていったそうだ。(椿委員)
- ・ 寺子屋事業の運営は担い手確保に苦労して、NPO 法人に委託したり、教育ボランティアを導入している例もある。(椿委員)
- ・ 富士見台小学校では寺子屋「富士見っ子」が週 1 回の学習支援、月 1 回のイベントを開催している。(老門・椿委員)
- ・ 寺子屋の運営主体は様々。宮前区内では地域教育会議などが主催している。他区では教育サポートセンターや生涯学習財団が主催している例もある。私の知り合いは中原区の寺子屋に関わっているが、先だって講座を受講したそうだ。担い手が集まらずに立上げが進まない例もあったようだ。(小田委員)
- ・ 宮前区の寺子屋コーディネーター養成講座に参加者が集まらないようだ。周知などの問題があるのかもしれない。(椿委員)

【生活保護家庭をめぐる課題・学習支援など】

- ・ 区役所集団教育ホールで水・金曜に、生活保護受給家庭の中学生を対象に学習支援が行われている。送迎はなく、生徒は自分で集まってくる。(事務局)
- ・ 生活保護受給家庭への学習支援は当初中 3 生のみを対象としていたが、徐々に対象が広がったが、プライバシーの面で宣伝ができないことがある。(小田委員)
- ・ 居場所としても価値がある。学校でなかなか発言できない生徒が、地域の方に褒められたことで自信がついて、勉強に対しての意識が変わった事例を聞いた。(椿委員)

- ・ 親も子どもも生活保護を隠したかったり、断るケースがある。(中村委員)
- ・ 生活保護受給の有無等に関わらず、誰でも受けたいと思った子が受けられる学習支援が必要ではないか。中学の勉強ができなければ、行ける高校が無く、中卒になると本当に仕事が無い。(葛西委員)
- ・ 生活保護だけの学習支援だと、中学生であれば、同じ中学から誰がきているのか、気にするだろう。誰もが来られる場所であれば、気にしなくて良い。(滝本委員)
- ・ 生活保護を受けていなくてもシングル親の家庭は食事や家族の時間が持てず、子どもが荒れたり、勉強が遅れたりというケースが結構ある。(川田委員)
- ・ 生活に精一杯だと広報なんて見ていないし、相談する時間もない。行政のこともわからない。(椿・葛西委員)

【放課後の居場所 わくわく】

- ・ わくわくと寺子屋が一緒になれば良いが、本来の目的や枠、事業の形が異なる。わくわくと学習支援を結び付けるのは難しい(葛西・椿・中村委員)
- ・ わくわくには非常にたくさんの児童が来て、いきいきと楽しんでいる。既存の場所をソフトの面で支援していく方法論もある。(青柳副委員長)
- ・ こども同士で、中学生が小学生の面倒を見たり、上下関係もできてくる。(青柳委員)
- ・ 孫が宮崎小のわくわくに通っていた頃はものすごい人数で、宿題をやる子の周りで駆けずり回っている子がいる状況で、大変だなと感じた。3, 4年生になると、行くのを嫌がったので、私が迎えに行き、親の帰宅まで預かっていた。(中村委員)
- ・ わくわくの前身は学童。安全面を見るのが精一杯でほぼ子守り。紙芝居などを呼ぶ例もあるが毎日ではない。高学年になると習い事や塾で来なくなる子も多い。(小田委員)
- ・ 既に事業化され、運営されてきたものに区民会議でどうということは難しいと思う。(小田・葛西委員)

【その他の取組・施設など】

- ・ 愛児園は児童福祉施設で親が面倒を見られない子ども達が集まるが、塾に通わせている方など非常に恵まれている印象だ。(中村委員)
- ・ 高津区の「たまりば えん」などは相談なども受けているが、そこまで行く力がなかったり、その存在を知らない家庭も多い。(葛西委員)

【特に参考にしたい取組事例】

- ・ 町田駅前に住民ボランティアが運営する地域案内所の様な場があり、テレビで紹介されていた。気軽に相談や道を尋ねに入れる。地域や施設に繋がる入口として参考になるのではないかと。(中里部会長)
- ・ 東京大学の教授が関わり、NPO 法人で運営されている「学びのポイントラリー」は地域の人達の所に行って学習することを促すしくみ。地域の方に何かを学び、シールを

集める。学校とも連携し、賞状などがもらえる仕組みで運営する（葛西委員）

- ・ 野外授業であちこちにいて、その場で地域の方から学ぶ仕組みはよさそうだ。前期の区民会議提案「ハテナノタネ」も活用して運営できそうだ。世代交流その他様々なテーマ要素も盛り込める。（葛西委員・青柳副委員長）
- ・ 運用するならば NPO に委託する形が良いと思うが、その前提として地域の様々な団体と学校との調整役が必要になる。それが結構大変だと聞いた。（葛西委員）
- ・ ハテナノタネを今年の夏休み前に宮崎台小学校の4・5年生全員に配布した。使ってくれたのは4年生が多く、現地に行って楽しんだり、掲載参考図書を図書館で見たりしてくれた児童もいた。ただ、記載市民活動団体にアプローチした例はほとんど無く、その点では少しハードルが高かったようだ。（事務局）
- ・ ネット上だけで資料を探すのではなく、実際に人に会って聞いた話は、より身近に感じることができる。（滝本委員）

議題3：その他

【部会名について】

- ・ テーマがもう少し絞られた時点で検討するものとする。（次回以降）

【今後の進め方】

- ・ 資料に基づいて、日程等確認した。次回は事例資料等持寄りながら、テーマの更なる絞り込みを図る。